

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二第

論 說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二完)

講 師 米田庄太郎

研 究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(三完)

講 師 高田 保馬

雜 錄

●經濟雜語(二)

法學博士 田島 錦治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

法學博士 神戶 正雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講 師 米田庄太郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山本美越乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河田 嗣郎

●獨逸ノ市統計所小觀

講 師 財部 靜治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講 師 本庄榮治郎

職工扶助令ニ就テ

助教 山本 美越 乃

工場法ノ實施ニ伴ヒ愈々同法第十五條即チ『職工自己ノ重大ナル過失ニ依ラズシテ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ、又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ遺族ヲ扶助スベシ』トノ規定ニ基キ、近ク其ノ扶助方法ニ關スル勅令發布ノ必要ニ迫ラレツツアル政府當局ハ過般來全國主要ナル工業地ニ其ノ案ヲ示シテ關係者ノ意見ヲ徵シツツアリト云フ、本來該規定ハ幼少年者及ビ女子ノ勞働ニ關スル規定ト共ニ工場法ノ生命トモ稱スベキ最重要ナルモノナルガ故ニ、其ノ扶助方法ニ關スル細則ノ如キモ徒ラニ外國ノ模倣ニ陥ルコトナク、又我が國ニ於テハ從來其ノ例ニ乏シカラザル放縱ナル工業主等ノ恣意的要求ニノミ耳ヲ傾クルコトナクシテ、最モ公平ナル見地ヨリ我ガ現在及ビ將來ノ工業的發展ノ趨勢ニ適應スベキ規定ヲ設クルコトニ注意セザル可カラズ。

由來工業勞働者ノ不慮ノ災厄ニ對スル救濟制度ハ歐洲ニ於テハ既ニ前世紀ノ初期ヨリ或種ノ工業ニハ實行セラレタル所ニシテ、其ノ實例ハ獨逸及ビ奧太利ノ鑛業勞働ニ之ヲ求ムルコトヲ得ベシ、蓋シ是等ノ事業ハ其ノ性質上一般ニ大規模ニシテ當ニ多數ノ勞働者ヲ使役スルノミナラズ、災厄發生ノ危險モ亦甚ダ大ナリシヲ以テナリ、鑛業ニ次デ此ノ種ノ制度ノ行ハレタルハ海陸運業ニシテ危險ノ程度及ビ多數ノ下級勞働者ヲ使用スルノ必要アル點ニ於テハ略ボ相似タルモノアリシニ因ル、然ルニ工場制度ノ發達ニ伴ヒ動力及ビ機械力利用ノ大規模工業組織ノ勃興ハ益々勞働上ノ危險ヲ大ナラシメ勞働階級ノ不幸ヲ増加セシムルニ至リタリト雖ドモ、當初各國ニ行ハレタル工業勞働者ノ不慮ノ災厄ニ對スル救濟制度ハ當事者ノ過失ノ有無ニ依リテ其ノ責任ノ有無ヲ決スルノ主義ニ依リ、即チ災厄ヲ發生セシメタル過失アル場合ニノミ工業主ハ罹災者ヲ救濟スルノ責任アリトナシタルヲ以テ罹災者カ救濟ヲ受ケント欲セバ自ラ業主ノ過失

ニ對スル舉證ノ責ヲ負ハザル可カラザルガ如キ不都合ヲ生ジ、其ノ結果ハ却テ救濟ノ眞目的ヲ達スルコト能ハザリシヨリ、遂ニ斯カル『業主ノ責任法』(“Employer's Liability Laws”)ニ代ユルニ現今ノ『労働者賠償(扶助)法』(“Workmen's Compensation Laws”)ナルモノノ制定ヲ見ルニ至レリ、故ニ労働者扶助法ノ根本主義トスル所ハ罹災者自己ニ重大ナル過失ノ存スル場合ノ他ハ、工業主ハ業務上發生セル一切ノ災厄ニ對シテ労働者ヲ扶助スルノ義務アリト云フニ在リ、蓋シ近世ノ複雑セル器機ノ助ケニ依ル工場労働組織ノ下ニ於テハ假令労働者ニ相當ノ注意力アルモ災厄ヲ未然ニ防止スルコト頗ル難キ場合多ク、從テ罹災ハ現今ノ工場労働ニハ避クベカラザル一ノ犠牲ト稱スルモ不可ナク、殊ニ下級ノ労働者等ハ教育及ビ知識ノ程度幼稚ナルガ故ニ彼等ニ對シテ常ニ完全ナル注意ヲ要求スルコトハ殆ンド不可能ナルヲ以テ、一朝災厄ノ發生セル場合ニハ斯カル労働者ノ努力ヲ必要トセル工業主ヲシテ之ガ扶助ニ任ゼシムルヲ正當トスベ

キ事由存スルヲ以テナリ、然ルニ我が國ノ工業主中ニハ現今ト雖ドモ尙ホ自己ノ過失ノ有無ニ依リテ其ノ責任ノ有無ヲ決セントスルガ如キ固陋ナル意見ヲ懷抱セル者甚ダ多キハ嘆ズ可キノ至リナリトス。

上述ノ主義ニ基ケル扶助制度ヲ初メテ實施シタルモノモ亦獨逸ニシテ、煥國之ニ次ギ、爾餘ノ諸國ハ孰レモ皆是等兩國ノ例ニ倣ヘルモノナリ、今參考ノ爲メ各國ニ於ケル労働者扶助法ノ制定ノ遲速ヲ示セバ左ノ如シ。(註)

獨逸	一八八四年	墨其西哥	一九〇六年
奧國	一八八七年	匈牙利・どら	一九〇七年
芬蘭	一八九四年	人すばりあ	一九〇八年
英	一八九七年	けるがりあ	一九〇九年
丁抹伊太利	一八九八年	せるびあ・に	一九一〇年
佛蘭西	一九〇〇年	ゆるす	一九一〇年
南瀛洲	一九〇〇年	たすまにあ	一九一二年
和蘭・瑞臘	一九〇一年	べるい・らん	一九一二年
希臘	一九〇二年	てれぐる	一九一二年
英領	一九〇二年	るーまにあ	一九一三年
露西	一九〇三年	葡 萄 牙	一九一〇年
白	一九〇三年	北米合衆國	一九一〇年
露西	一九〇三年	(州ニ依リテ)	一九一〇年
露西	一九〇三年	露西	一九一〇年

(註) Workmen's Compensation Laws of the U. S. and Foreign Countries (Bulletin of the U. S. Bureau of Labor Statistics, No. 126, 1914), p. 132.

以上ノ諸國ニ於テ勞動者扶助法ノ支配ヲ受クベキ業務ノ種類ハ製造工業・鑛山業・採石業運送業・建築業及ビ機械工業等ニシテ、國ニ依リテハ農業及ビ林業等ヲモ之ヲ包括セシムルコトアリ、又英國及ビ白耳義ニ於テハ該法規ハ殆ンド凡テノ業務ニ適用セラル。

扶助ヲ受ケ得ベキ者ノ資格ニ關シテモ獨・埃・伊・白・蘭・丁・諾・西・芬・瑞典等ニ於テハ單ニ賃銀勞動者及ビ彼等ト殆ンド同一ノ地位ニ立チ同一ノ危險ヲ冒サザル可カラザル監督者又ハ技術

者ノミニ限ラルルモ、英・佛・露・匈等ニ於テハ扶助法ハ廣ク賃銀勞動者及ビ俸給勤務者ニモ適用セラル。

扶助法ニ依ル扶助額ノ決定ハ一般ニ罹災者ノ受クル賃銀又ハ俸給額ヲ以テ標準トナシ、一時的勞動不能ニ對スル扶持・永久的勞動不能又ハ死亡ニ對スル年金若クバ一時金及ビ往々藥價・手術料・葬儀費等ヲモ其ノ内ニ包含セシム。

(附表參照)

(附表) (註)

國名	死亡ノ場合ニ於ケル扶助	勞働不能ノ場合ニ於ケル扶助
獨逸	<p>葬儀費・死者ノ收入年額ノ十五分の一(但シ五十馬克ヲ下ルベカラズ)</p> <p>遺族ニ對スル年金・死者ノ收入年額ノ六割ヲ超エザル範圍ニ於テ左ノ如ク支給ス</p> <p>寡婦・死亡又ハ再婚時迄ニ割</p> <p>子女・十五歳以下ノ者ニハ一人ニ對シテ二割以上合シテ死者ノ收入年額ノ六割ヲ超ユル時ハ六割迄減額セラル</p>	<p>醫療費・最初ノ十三週間ハ疾病扶助基金中ヨリ其ノ後ハ業主聯合會ヨリ支給ス</p> <p>全部勞働不能(一時的又ハ永久的)ノ場合・第四日ヨリ第四週間ノ終リ迄ハ平均日給額ノ五割(但シ三馬克ヲ超ユルヲ得ズ)ヲ疾病扶助基金中ヨリ支給ス、第五週ヨリ第十三週間ノ終リ迄ハ此上ニ更ニ業主ヨリ一割六分六厘ノ増額ヲナス、第十三週後ハ六割六分六厘ヲ業主聯合會ヨリ支給ス</p> <p>一部勞働不能ノ場合・各場合ニ應ジテ相當ノ減額ヲナス</p>
	<p>(註) 疾病扶助基金ハ業主三分の一、使傭者三分ノ二ノ割合ヲ以テ醸出ス、業主聯合會ハ業主ノ寄附ニ依リテ支持セラル</p>	

白 耳 義	英 吉 利	佛 蘭 西	奧 太 利
<p>葬儀費・七五法 遺族ニ對スル年金・死者ノ收入年額ノ三割ニ等シキ額ヲ左ノ如ク支給ス 寡婦・他ニ相續者無キ時ハ全額・十六歳以下ノ子女一人アル場合ニハ五分ノ四、二人以上アル場合ニハ五分ノ三 子女・十六歳以下ノ者ハ右ノ殘額ヲ受ク (註)扶助費ハ全部業主ノ負擔トス</p>	<p>(註)扶助費ハ全部業主ノ負擔トス 醫療及葬儀費・遺族無キ時ハ十磅以下 遺族ニ對スル扶助・百五十磅以上三百磅以下ノ範圍ニ於テ死者ノ收入ノ三箇年分ニ等シキ額ヲ支給ス 但シ遺族ガ他ニ收入ノ途アル時ハ此額ヲ減少スルコトヲ得</p>	<p>葬儀費・百法以下 遺族ニ對スル年金・死者ノ收入年額ノ六割ヲ超エザル範圍ニ於テ左ノ如ク支給ス 寡婦・死亡又ハ再婚時迄ニ割 子女・十六歳以下ノ者一人ナル時ハ一割五分、二人ナル時ハ二割五分、三人ナル時ハ三割五分、四人以上ハ四割、若シ前親共ニ死亡キ時ハ十六歳以下ノ子女一人ニ對シテ二割 (註)扶助費ハ全部業主ノ負擔トス</p>	<p>葬儀費・二十五ふろりん以下 遺族ニ對スル年金・死者ノ收入ノ五割ヲ超エザル範圍ニ於テ左ノ如ク支給ス 寡婦・死亡又ハ再婚時迄ニ割 子女・(嫡子・十五歳以下ノミニシテ前親共ニ死亡キ時ハ一割、庶子・十五歳以下ノ者ニハ一割) 以上合シテ死者ノ收入額ノ五割ヲ超エタル時ハ五割迄減額セラル (註)疾病扶助基金ハ業主三分ノ一、使備者三分ノ二ノ割合ヲ以テ出金ス</p>
<p>醫療費・六箇月以内 全部労働不能ノ場合・罹災翌日ヨリ日給額ノ五割ノ扶助ヲ終身年金ニ代ユ 三箇年ヲ経過スルモ労働能力ヲ恢復セザル時ハ一時ノ扶助ヲ終身年金ニ代ユ</p>	<p>全部労働不能ノ場合・過去一箇年間ノ平均週給額ノ五割以内ヲ每週支給ス(但シ一週ノ磅ヲ超エタルヲ得ス) 一部労働不能ノ場合・負傷ノ前後ニ於ケル收入額ヲ比較シ其ノ差額ヲ超エザル範圍ニ於テ扶助額ヲ決定ス 幼少年者ニハ労働不能期間一週十志ヲ超エザル範圍ニ於テ全賃銀額ヲ支給スルコトヲ得</p>	<p>醫療費 全部労働不能(永久的)ノ場合・收入年額ノ六割六分六厘、同上ノ時的ノ場合・第五日目ヨリ日給額ノ五割、但シ一日以上ニ互ル時ハ第一日目ヨリ支給ス 一部労働不能ノ場合・之ガ爲メニ減少セル收入額ノ二分ノ一ヲ支給ス</p>	<p>醫療費 全部労働不能(時的又ハ永久的)ノ場合・第四週ヨリ支給シ、第四週後ハ平均收入年額ノ六割ヲ災厄保險ニ依リ扶助ス 一部労働不能ノ場合・平均收入年額ノ五割ヲ超エザル範圍ニ於テ扶助ス</p>

(註) Ditto, pp. 140-170

伊 太 利	<p>貧傷後二箇年以内ニ死亡セル時ハ死者ノ收入年額ノ五倍ニ等シキ額ヲ左ノ如ク支給ス、但シ其ノ總額ハ一萬リヲ超過スルヲ得ズ)</p> <p>寡婦・子女アル場合ニハ五分ノ二、尊屬親アル場合ニハ二分ノ一、死者ノ兄弟姉妹等アル場合ニハ五分ノ三、以上ノ關係者ナキ時ハ全額</p> <p>子女・十二歳以下ノ者ハ平等ノ額ヲ受ケ十二歳以上十八歳以下ノ者ハ其ノ半額ヲ受ケ</p> <p>(註)扶助費ハ全部業主ノ負擔トス</p>	<p>醫療費</p> <p>全部勞働不能(永久的ニ)ノ場合、收入年額ノ六倍(但シ二千リ以上タルヲ要ス)、同上ノ一時ノ場合、三箇月以内ハ貸銀ノ二分ノ一ヲ支給ス</p> <p>一部勞働不能(永久的ニ)ノ場合、減少セル收入年額ノ六倍、同上ノ一時ノ場合、之ガ爲メニ減少セル收入額ノ二分ノ一ヲ支給ス</p>
露 西 亞	<p>葬儀費・死者ノ賃銀額ノ二十日乃至三十日分</p> <p>遺族ニ對スル年金・左ノ如ク支給ス</p> <p>寡族・死亡又ハ再婚時迄死者ノ收入年額ノ三分ノ一</p> <p>子女・両親ノ一方生存セル場合ニハ十五歳以下ノ者ニハ一人ニ對シテ六分ノ一、両親共ニ死亡キ場合ニハ同上四分ノ一、其ノ他ノ遺族ニハ六分ノ一</p> <p>以上合シテ死者ノ收入年額ノ三分ノ二</p> <p>(註)疾病扶助基金ハ業主五分ノ二、使傭者五分ノ三ノ割合ヲ以テ賦出ス</p>	<p>醫療費・最初ノ十三週間ハ疾病扶助基金中ヨリ支出シ其ノ後ハ厄僱保險ニ依ル</p> <p>全部勞働不能(永久的ニ)ノ場合、收入年額ノ三分ノ二ノ年金ヲ支給ス、同上ノ一時ノ場合、最初ノ十三週間ハ男子ハ日給額ノ三分ノ二、女子ハ全額、其ノ後ハ共ニ三分ノ一ヲ支給ス</p> <p>一部勞働不能(永久的ニ)ノ場合、其ノ程度ニ應ジテ決定ス</p>

罹災ノ程度左迄大ナラザル場合ニ於ケル扶助ニ關シテハ各國之ガ規定ヲ一ニセズ、伊・露・西等ニ於テハ其ノ程度ノ如何ヲ問ハズ一切ノ罹災ニ對シテ扶助ヲ爲スベキ制度ヲ有スルモ、其ノ他ノ諸國ニ於テハ多クハ『休養期間』ナルモノヲ設ケ扶助ノ請求ニハ此ノ期間ヲ經過スルモ尙ホ勞働不能ナル事實ノ存スルコトヲ必要條件トナセリ、『休養期間』ハ最短二日(和蘭・瑞西等)ヨリ

最長十三週間(丁抹)ニ亘リ國ニ依リテ一様ナラズ、今各國ノ扶助法ニ基キ扶助ヲ受クルニ必要ナル勞働不能期間ヲ示セバ左ノ如シ。(註)

伊太利・露西亞・西班牙・葡萄牙・墨其西哥・
 希臘
 獨逸・埃太利・匈牙利・諾威・るくぜんぶるぐ
 和蘭・瑞西
 佛蘭西

程度ヲ問ハズ一切ノ罹災ニ對シテ扶助ヲ爲ス

二日以上
 三日以上
 四日以上
 五日以上

(註) Ditto. p. 134.

芬蘭

六日以上

英國・にゅーぎいらんど・南極洲・たすまにあ
白耳義・げべつく・そらんすばい
英領ころんびあ・西極洲・にゅーさうすうら
るす

少クトモ一週間
一週間以上
少クトモ二週間
二週間以上
六十日以上
十三週間以上

瑞典

丁抹

北米合衆國

州ニ依リテ異ナリ

國ニ依リテハ勞働不能ノ初期ニ於ケル扶助ハ
疾病扶助基金（強制疾病保險制度ノ下ニ積立テ
ラレタル保險金）中ヨリ之ヲ支出スルモノアリ、
斯カル制度ヲ有セル主要ナル國及ビ其ノ扶助期
間ハ左ノ如シ。（註）

奧太利

獨逸

匈牙利

露西亞

最初ノ四週間

權限第四日ヨリ至百日迄

最初ノ十週間

最初ノ十週間

諾威

るくせんぶるぐ

るいまにあ

せるびあ

最初ノ四週間

最初ノ十週間

最初ノ二週間

最初ノ十週間

ぐ・るいまにあ ぶるがりあ・もんてねぐるノ九
箇國ニ於テハ勞働者モ亦其ノ一部ヲ負擔スルモ
爾餘ノ諸國ニ於テハ全然業主自ラ之ヲ負擔ス。
若シ扶助法ノ適用ニ關シテ爭議ヲ生ズル時ハ之

ヲ特別仲裁々判ニ附スルカ或ハ又普通ノ裁判所
ヲシテ審理セシム。『勞働者扶助法』ヲ制定シタ
ル國ニ於テハ多クハ從來ノ『業主ノ責任法』ヲ廢
止セルモ、未ダ之ヲ廢止セザル所ニ在リテハ何
レノ法律ニヨリテ救済ヲ受クベキカハ全ク罹災
者ノ自由ニ委ヌルコトトナセリ。

勞働者扶助法ノ實施ト共ニ之ガ爲メニ業主ノ
受クベキ苦痛即チ其ノ負擔ヲ輕減セント欲セバ
保險制度ノ採用ハ自然ノ徑路ニシテ、我が國ニ
於テモ職工扶助令ノ制定ニ次デ勞働保險法ノ制
定ハ早晚解決ヲ要スベキ重大問題タリ、現今各
國ニ行ハルル勞働保險ノ制度ニハ強制及ビ任意
ノ二種アリ、強制的ノ保險制度ハ之ヲ分チテ（一）
特定ノ保險機關ニ保險ス可キコトヲ強制スルモ
ノ、（二）保險ハ之ヲ強制スルモ保險機關ノ選擇ハ
當事者ノ自由ニ委ヌルモノノ二種トナスコトヲ
得ベク、前者ハ更ニ（イ）國家ノ獨占的保險機關ニ
保險ス可キコトヲ強制スルモノ（諾威・瑞西等）、
（ロ）國家ノ監督ノ下ニ於ケル業主ノ共同保險機關
ニ保險ヲ強制スルモノ是等ノ機關ハ地方的區劃ヲ

（註） Ditto, p. 135.

標準トシテ組織セラルルモノ（奥匈國・露國・るくせんぶるぐ等）、（ハ）地方的區劃ニ依ラズシテ主トシテ事業ノ種類ヲ標準トシテ組織セラルルモノ（獨逸・希臘等）トナスヲ得ベク、後者ハ又イ國家ノ保險機關ト共ニ私設ノ保險機關ヲ有スルモノ（伊太利・和蘭等）、（ロ）唯私設ノ保險機關ノミヲ有スルモノ（芬蘭）トナスヲ得ベシ。任意的ノ保險制度モ亦之ヲ（一）國家ノ保險機關ト共ニ私設ノ保險機關ヲ有スルモノ（瑞典・佛蘭西等）、（二）唯私設ノ保險機關ノミヲ有スルモノ（白耳義・丁抹・西班牙・英國等）ニ分ツコトヲ得ベシ。而シテ國家ノ監督ノ下ニ於ケル特定ノ保險機關ニ保險ス可キコトヲ強制スル場合ニハ法律ハ該機關ノ支拂能力ニ對シテ保證ヲ與フベキハ論ヲ俟タズ、國家ハ是等ノ保證ニ應ゼンガ爲メニ特別ノ資金ヲ準備スルカ然ラズンバ保險會社若クハ業主ヨリ保證資金ヲ徵收スルヲ常トス。任意保險又ハ保險機關ノ自由選擇制度ヲ採用セル國ニ在リテハ、國家ハ保險機關ニ對シテ適當ナル支拂準備ヲ命ズルカ又ハ政府ニ擔保ヲ提供セシムルコト

ニ依リテ被保險者ヲ保護スルヲ原則トス。要之職工扶助令ノ如キ或ハ勞働保險制度ノ如キハ先進諸國ニ於テハ既決ノ問題ニ屬スルニ我ガ國ニ於テハ尙未決ノ問題タルガ故ニ、他國ノ實驗ニ鑑ムルト共ニ又我ガ國情ニ照シテ果シテ如何ナル制度ヲ適當トスベキカハ官民共ニ慎重ナル攻究ヲ要スベキ問題ナリトス。